



# はくび通信

第20号  
37  
20



# 住職の小噺

## 天下人「信長と道三」

戦国武将総選挙で見事1位に輝いた織田信長。斬新な発想で誰もがやらなかつたことに挑戦し、様々な奇策を打ち出して天下統一を目指した彼が日本に与えたインパクトは大きいものでした。今回はそんなエピソードの一つをお話しします。

天文18年、信長は父信秀の長年の敵だった「美濃のマムシ」斎藤道三の娘「帰蝶（濃姫）」を妻に迎えます。この縁談は、織田家重臣で信長の養育と後見役を任された家老平手政秀の才覚によりまとめられ、戦の絶えなかつた両家の和睦を結ぶきっかけとなりました。

天文20年、万松寺で行われた信秀の葬儀に、正装とは程遠い不良のような格好で現れ、位牌に抹香を投げつけるという騒動を起こした「うつけ」信長が織田家の家督を継ぎます。その後も身なりは変わらず、お供もまたれで肩を組み、ものを食べながら町を歩く信長をお護りしても甲斐がないと考えた平手は自害してしまいます。天文22年のことでした。それを知った道三は、大馬鹿



## 小噺



味するからです。

者と噂の信長を驚かせて笑つてやろうと、現在の一宮市にある正徳寺に呼び出します。両者初めての会見です。

道三は、立派に身支度をさせた7800人の家臣の前を信長が奇妙でだらしない恰好で通るのを町はずれの小屋に隠れて覗き見し、しめしめと思い寺に戻り信長を待ちました。

ところが信長は到着するやいなや、周囲を屏風で囲み、髪を折り曲げに結い、褐色の長袴を穿き、拵えておいた短刀を差すという立派な正装に身なりを整えました。婿信長は道三に挨拶をし、「湯漬け」「御盃」という形式を踏んだ会見を滞りなく終えたのです。この信長の様変わりと立ち居振る舞いに道三勢は肝を潰しました。

信長の本当の怖さと能力を見抜いた道三は「また近いうちにお目にかかるう」と席を立ち、信長を20町ほど見送りましたが、道山勢よりもうんと長い信長勢の槍を掲げた行列を見て、面白くなさそうに黙つて美濃へ帰つていきました。

美濃へ戻つた道三が「自分の子供はきっとたわけの門外に馬を繋ぐことになる」と話したのを機に、

道三の前で信長のことを「うつけ」と呼ぶ者はいなくなりました。「馬を繋ぐ」とは家臣になることを意

永禄8年、信長は固定概念にとらわれない戦術や武器を次々に駆使し、尾張一国の統一を果たしました。



万松寺初代住職大雲永瑞大和尚の命日供養を営みます。



4/22(水) 開山忌

4/22(水)

開山忌



4/23(木) 春姫忌

4/23(木)

春姫忌

尾張徳川家初代藩主義直公正室春姫の命日供養を営みます。



5/16(土)  
30(土)

5/16(土)  
30(土)

万松寺  
ふれあい企画

好評いただいた特別企画（僧作料理付き万松寺巡り、住職の小噺、30日のみ、みくじ占い）を開催します。



5/28(木) 春期不動明王大祭

5/28(木)

春期不動明王大祭

身代不動尊のご真前にて災難消除、病気平癒、無病息災、身體健全、交通安全、家内安全の祈祷を行います。

これから行事

身代不動明王縁日

毎月28日開催

身代わり餅つき18時～

祈祷・供養・隨時受付

行事・祈祷・供養のお問合せ・お申込みは

祈祷受付

または

052-1262-10735  
(年中無休 9時～20時)  
にて承ります。

身代不動尊のご真前にて災難消除、病気平癒、無病息災、身體健全、交通安全、家内安全の祈祷を行います。

# 僧侶が教える

## 仏教の一豆知識

### 修行僧と食事

曹洞宗では、得度を終え修行に入った修行僧にそれぞれ役割が与えられます。その中のひとつに修行僧の毎日の食事を作る「典座（てんぞう）」という役割があります。これは、食事は単にお腹を満たすためだけのものではなく、どんな食べ物にもある尊い命に向かい、調理し、いたたくことの心得や作法を身につける修行の一つなのです。

曹洞宗永平寺の開祖道元禅師は「食」というものを非常に大切にしており、「典座経訓（てんぞうきょううくん）」として、食事を作ることも食べることも、すべては人の生き方に通ずるということを説かされました。

禅宗の僧は食事の前に「食事五観之偈（ごかんの偈）」という食事への感謝と心構えを唱えます。その心は、現在の「いただきます」という習慣に受け継がれており、

食材の命を「いただく」という意味が込められています。またお昼の食事では、自分が食べるご飯から米粒7粒を残し「生飯の偈（さばのげ）」を唱えます。これは、餓鬼道に墜ち、いつもひもじい思いをしている餓鬼への供養の意味があります。食事の最後は、たくわんを一枚残します。これは残したくわんに白湯をかけ、食器の汚れを落とし、食器を洗う手間を省くという作法です。もちろん最後にたくわんも食べ、白湯はすべて飲み干します。

三つには心を防ぎ、過を離ることは、食等を宗とす。  
食つたり不満を漏らしたりせず、正しい心を保って食事をいただきます。

四つには正に良薬を事とするは、形枯を療せんがためなり。  
身体を養い、健康を得るために良薬として食事をいただきます。  
修行僧の食事は心得や作法だけでなく食器にも意味が込められています。「応量器」という5つ重ねの黒塗りの椀で、朝・昼・夕の食事に必要な器だけを使います。これは、必要な器で自分で食べられる量、つまり適量を知ることにつながります。また、収納するときは重ねてひとつにまとめて空間を効率よく使うなど食事以外のことも考えることにつながっています。

昨日、旬の食材を用いる精進料理は、医食同源に通じ「薬」それも「副作用のない薬」として、生活習慣病などの予防や改善に効果的ということで注目されはじめています。

そのほか、精進料理は優れた料理や調味料を生み出しています。例えばみなさんがよくご存じの豆腐、湯葉、油揚げ、味噌、醤油などは、生で食べることのできる大豆の調理方法や保存方法を工夫したもので、現在も食されています。

食の乱れは心の乱れとも言われます。飽食の時代と言われる今、あらためて食事について考えてみてはいかがでしょうか。

万松寺では、昨年末の精進料理をお出しする企画へご参加いたしました皆様や参加希望の皆様のご要望にお応えして「万松寺ふれあい企画」として、僧侶が旬の食材を吟味し創作した精進料理と法話をお愉しみいただく企画を開催しております。

### 典座教訓

料理を作る人にとって大切な心得

一、喜心（きしん）  
料理を作る役割を担うこと

二、老心（ろうしん）  
食べる人のことを思い

三、大心（だいしん）  
偏りの気持ちを持たない大きな心。

### 食事五観之偈（ごかんの偈）

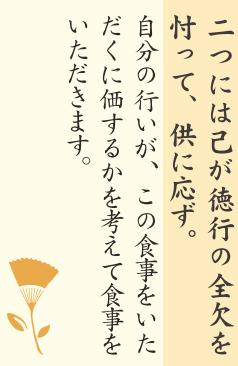
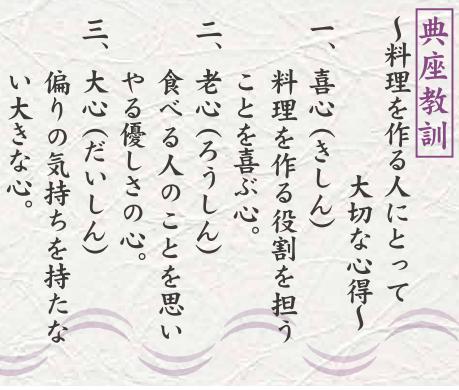
一つには功の多少を計り、  
彼の来処を量る。

多くの人の働きにより、食事が調えられていることに感謝して食事をいただきます。

二つには己が徳行の全欠を付つて、供に応ず。

自分の行いが、この食事をいただくに価するかを考えて食事をいただきます。

三つには心を防ぎ、過を離れる優しさの心。



修行僧が食べる食事といふと、精進料理を思い浮かべる方が多いと思います。この精進料理の「精進」とは「正しく仏道を歩む・修行に励む」ことを表しており、精進料理とは修行を行ふにあたりふさわしい料理ということなのです。ですから、自分が食べるためだけに殺生を行つたり、精を付ける食材を用いたりしないことが基本となっています。



是非、皆さまのご参加を心からお待ちしております。

### 5月 万松寺ふれあい企画

16日(土)・30日(土)

万松寺巡り 僧作精進料理付き

キャンペーンにつき

11:00～

参考費: 10,000円 - 500円(税込)  
定員: 各日30名様



16日(土)・30日(土)

みくじ占いよろづ相談

13:00～



お子様用の精進料理もございます  
※画像はイメージです

フリーダイヤルイコナ クヨーニ  
0120-157-942

お問合せ・ご予約は「総合受付」または右記フリーダイヤルまで

30日(土)

住職の小嘶

事前予約制

10:00～



お釈迦様の教えから時事ネタまでを分かりやすく解説  
参加費: 無料  
定員: 40名様

受付 9:30～18:00  
(年中無休)



# 万松寺日記

## 涅槃会

■令和2年2月15日（土）

お釈迦様が沙羅の木の下で入滅（亡くなること）された日に、遺徳を慕い報恩感謝の法要を當みました。



## なごや七福神巡り バスツアー

■令和2年2月5日（水）

「なごや七福神」を巡るバスツアーオーを開催しました。僧侶が随行し、各寺院ではお経を読み、車中では法話をお話ししました。お昼は万松寺にて精進料理をお召し上がりいただきました。



## 信秀忌

■令和2年3月3日（火）

信秀忌を當みました。

この日は織田信長公の父であり、万松寺を開いた織田信秀公の祥月命日です。万松寺では毎年追悼法要を當みます。



## 初午会

■令和2年3月4日（水）

白雪稻荷様のご真前にて、商売繁盛・金運上昇などのご祈祷を行ないました。



## 災害物故者追悼法要

■令和2年3月8日（日）

未曾有の災害となつた東日本大震災から9年。そのほか各地で起きた災害により犠牲となられた多くの命を悼み偲ぶ「災害物故者追悼法要」を當みました。また、被災された方々の心と身体の健康と一刻も早い復興を祈願するご祈祷を行いました。



## 春彼岸合同法要

■令和2年3月19日（木）

春彼岸合同法要では、万松寺納骨堂契約者様のご先祖様を懇ろに供養させていただきました。



■令和2年4月8日（水）

お釈迦様が花園でお生まれになつた日に、誕生を祝し報恩感謝の法要を當みました。



## 降誕会

■令和2年4月8日（水）

お釈迦様が花園でお生まれになつた日に、誕生を祝し報恩感謝の法要を當みました。



万松寺では、パンデミックを引き起こした新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大防止の為、2月21日（金）以降に開催予定だった行事や催しを中止または縮小とさせていただきました。法要につきましては、一般参列を中止とし、僧侶のみで法要を當みました。

ご参列、ご参加を心待ちにしていただいた皆様には申し訳ございませんでした。

またのご参列、ご参加を心よりお待ち申上げます。

## 万松寺の永代供養納骨堂

お墓・供養のあらゆるお悩みにお応えします



万松寺納骨堂が選ばれ続ける3つの理由

1

由緒ある寺院による安心の永代供養

2

納骨後も安心な負担の少ない法要費用

3

駅から徒歩3分 天候に左右されない屋内施設

0120-157-942  
または万松寺総合受付まで